

# 令和4年度 林業普及週間現地情報(10/23～10/30)

森林管理課

IUFROの分科会における本県森林・林業の発信

10月29日(土)～30日(日)

令和4年10月26日から31日にかけてIUFRO(国際森林研究機関連合)の分科会が沖縄県内で行われ、令和4年10月29日(土)の公開シンポジウム(場所：沖縄コンベンションセンター)、30日(日)のエクスカージョン(現地見学・意見交換)に参加した。(IUFROは1892年にヨーロッパで創設された森林・林業を研究する機関が集まる団体で、5年に一度、世界大会を開催するほか、大小さまざまな研究会を開催している。)

公開シンポジウムのパネルディスカッションでは、北部農林水産振興センターの普及指導員である仲里氏が沖縄本島北部地域の森林・林業について、環境省の安藤氏が世界自然遺産の状況について、(株)ENDEMIC GARDEN Hの上開地氏が外来種対策について話題提供を行った。その中で、「沖縄本島北部地域の世界自然遺産の課題」や「世界遺産区域も森林管理が必要か」等の議論があった。国内の世界自然遺産区域の中で、民有林面積が半分以上を占めるのは沖縄本島北部地域と奄美大島のみであり、人と自然の関わり合いが重要であることが認識された。

エクスカージョンでは、恩納村にある沖縄県民の森にて、県が行ったタワーヤーダを用いた帯状伐採の実証試験について説明した。各国の研究者から「パッチ状の伐採はどうだろうか。」といった提案や、「地形がフラットな現場でも可能な伐採方法なのか。」、「伐採後は造林するのか。」といった多くの質問があった。

今回のイベントにおいて、国内外から来た参加者に対して本県の森林・林業をPRできたのは非常に良い機会であった。今後とも国内外へ発信できるよう環境保全に配慮した森林・林業の推進に取り組んでいきたい。



パネルディスカッションの様子



エクスカージョンの様子

(報告者：北部農林水産振興センター 仲里、森田、仲宗根)